

平成28年度 第2回 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 平成28年7月21日（木） 10時30分～11時30分

2 場 所 松村ビル別館501号会議室

3 出席者 上杉 幸雄 委員長、垣内 恵美子 委員、西田 由紀子 委員、藤崎 晴彦 委員

4 欠席者 無し

5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	議題 第2期指定管理者 平成27年度業務評価
委員意見等	<p>1 開会</p> <p>(1) 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき公開とした。</p> <p>2 議題：第2期指定管理者 平成27年度業務評価について 〈審議結果〉</p> <p>(1) 事業目標については、各委員の評価は、Aが2名、Bが2名であり、委員会としての外部評価はA評価とした。 鑑賞機会提供事業での年間公演回数・月入場者数の目標達成、小ホールと芸能ホールを連携させた若手育成の仕組みの確立、寄席体験プログラムから派生した修学旅行受入れの新規取組、相談・コーディネート事業の件数・内容の進展、市の文化政策との連携によりにぎわい座の社会的ポジションを高めた点、などが評価された。</p> <p>(2) 運営目標については、各委員の評価は、Bが3名、Cが1名であり、委員会としての外部評価はB評価とした。 貸館利用者へのきめ細かい利用内容の相談、「街コン」「街歩きツアー」「バックステージツアー」など新たな客層の裾野を拡大する取組等が評価された一方、利用率が増加傾向ではあるものの、全室目標に達していない点が大きな課題であり、ホールセール手法の見直し等も検討すべき、との意見</p>

が出された。

- (3) 維持管理目標については、各委員の評価はそれぞれBであり、委員会としての外部評価はB評価とした。

サービス介助士の資格取得や救急救命の研修、3回の防災訓練など、スタッフの防災意識を高める取組が評価されたほか、事故なく適切に管理されていた、との評価を受けた。

- (4) 収支については、各委員の評価はそれぞれBであり、委員会としての外部評価はB評価とした。

収入全項目が予算を超え、全体収支での黒字が継続した点が評価された一方、事業収支の単独黒字化について更なる努力が求められる、などの意見が出された。

- (5) PCDAサイクルについては、各委員の評価はそれぞれBであり、委員会としての外部評価はB評価とした。

- (6) 指定期間終了にあたっての業務については、各委員の評価はそれぞれBであり、委員会としての外部評価はB評価とした。

- (7) その他管理運営に関する留意事項については、各委員の評価はそれぞれBであり、委員会としての外部評価はB評価とした。

- (8) 以上を受けて、基本方針については、各委員の評価はそれぞれBであり、委員会としての平成27年度指定管理業務の評価（外部評価）はB評価とした。

- ・公演事業、若手育成などの面で総合的なプロデュース力が伸びており、事業展開の随所でにぎわい座らしさが感じられるほか、貸室・収支面の課題を建設的に解決に繋げている。
 - ・市の文化政策に貢献する取組や外部と連携した取組が、にぎわい座本体の事業展開にもつなげる好循環をもたらしている。
 - ・全体収支の黒字化を継続した点が高く評価でき、最終年度においても新たな客層を広げる試みがなされた点が評価できる。
 - ・優れた企画とそれに応える演者の熱演により事業内容の充実を招来している。
 - ・貸館利用率及び寄席公演の集客については引き続き課題である。
- などの総括がなされた。

- (9) 第2期指定管理業務の総括として、

- ・期間前半の課題であった収支がこの2年間全体で黒字化するなど、第3期に向けて期待が持てる状況となった。
- ・現状分析のもと、柔軟に取り組んでいるトライアンドエラーの試みは、指定管理のメリットを最大限に生かす部分でもあり、引き続き機動的な対応を期待し

たい。

- ・ 5年間で施設の利用者数は増加傾向、稼働率は小ホールと制作室では増加するなど、プロモーション活動や利用しやすい仕組みづくりの成果が見られる。
- ・ 研鑽から飛躍への若手育成の流れが確立したことは、演者の励みと鑑賞者の育成の楽しみの両面で大きな意義がある。
- ・ 芸術文化を尊重しながら、良い形での市民協働を形成する途上にあると思われるので、さらに取組を進めてほしい。
- ・ 大衆芸能の常設館として、公演回数、所属団体にとらわれない番組構成、多彩な企画公演、若手演者の育成など、その役割を十分に果たすだけでなく、公共施設として求められる地域への貢献についても、着実に成果を上げている。
- ・ 寄席公演の収支改善が課題であるが、第3期に進める「横浜にぎわい寄席」としての名称、料金等のリニューアルの取組に期待したい。ただし、寄席公演は若手を育てる先行投資の側面もあるので、収支だけにとらわれすぎない配慮も必要である。

などの総括がなされた。

(10) その他補足として

- ・ インターネットを介したチケット販売を行うにあたり、データの取扱等に関するセキュリティについては、今まで以上にリスクマネジメントを行い、導入時に混乱が生じないように進めてもらいたい。
- ・ 良い状態の施設運営は、演者の最高のパフォーマンスに繋がり、良い大衆芸能が生み出されれば、鑑賞者の裾野も拡大するので、その積み重ねで若い方々にも多く足を運んでもらい、大衆芸能の素晴らしい世界を発信してほしい。
- ・ 観客、パフォーマー、街の住民、サポーターすべてに渡り、人を育てるにはお金も時間も物も必要となるが、すぐに成果が出るものではない。一方で、年間2億円の指定管理料について、市民への説明責任も果たす必要がある。ぜひ、これまでの戦略的、機動的な取組により、バランスよく進めることを大いに期待する。

などの意見が出された。

- (11) 本日審議した外部評価については、各項目の評価コメントを含め、事務局で調整を行い評価表の公表案を作成の上、各委員の確認を得ることとした。